

ビジネスモデル3.0 — アイデアから実動まで — タスクホース計画

2015年5月23日
機械振興会館

片岡 信弘, 堀米 明, 小松 昭英,
五月女健治, 増井 久之, 須栗裕樹,
荒川弘熙, 松本正雄, 木村礼壮

contents

1. タスクホースの位置付け
2. タスクホースの目的
3. 目標達成のための手段
4. スケジュール
5. 参加メンバー毎の役割
6. タスクホース参加者

1.タスクホースの位置付

- タスクホースはSWIM研究会の有志によるも
- SWIM研究会の基本テーマ のインタプライズモデル形成技術の一部を試行
 - ◆ ネットワーク価値連鎖系企業におけるビジネス構想, 情報システム設計, システム実動
- 名称の思い
 - ◆ Web 1.0が「見る」だけの世界, Web 2.0で「使う」世界, Web 3.0で「作る, 加工する」世界が実現
 - ◆ 情報システム, 第1世代がデータ処理システム, 第2世代が, 経営情報システム, 第3世代がビジネス運用システム
 - ◆ これらに対応したビジネスモデルとの思い

2.タスクホースの目的

2.1基本的なストーリー

- アイデアに基づきビジネスモデルを設計
 - ◆ 設計結果の評価
 - ◆ ビジネスモデルのブラッシュアップ
- ビジネスアーキテクチャの設計
 - ◆ 設計結果の評価
- 情報システムの実動化
 - ◆ 情報システムの評価
- 上記の一連の手順を確立すること
 - ◆ 特にアイデアからビジネスモデルが従来は手薄

2.2 何が問題か

- 課題
 - ◆ アイデアがビジネスに結びつかない
 - ◆ 多くのベンチャが失敗をする
- 原因要素の一つ
 - ◆ アイデアをビジネスに繋ぐ確実な手順が無い
 - ◆ 確実なビジネス計画ができないまま起業する
 - ◆ ビジネスを支援するISを即実動できない
- タスクホースの目的
 - ◆ アイデアをビジネスに繋ぐ確実な手順立案
 - ◆ ビジネスの成功の確率を高める

ベンチャ企業の課題

アイデアを確実に
ビジネスモデルに
出来ない

ビジネスモデル
をビジネスに仕
上げられない

ビジネスモデルを支え
る情報システムの俊
足な実動が出来ない

当タスクホースのテーマ

資金の調達の課題
ベンチャキャピタルの不足

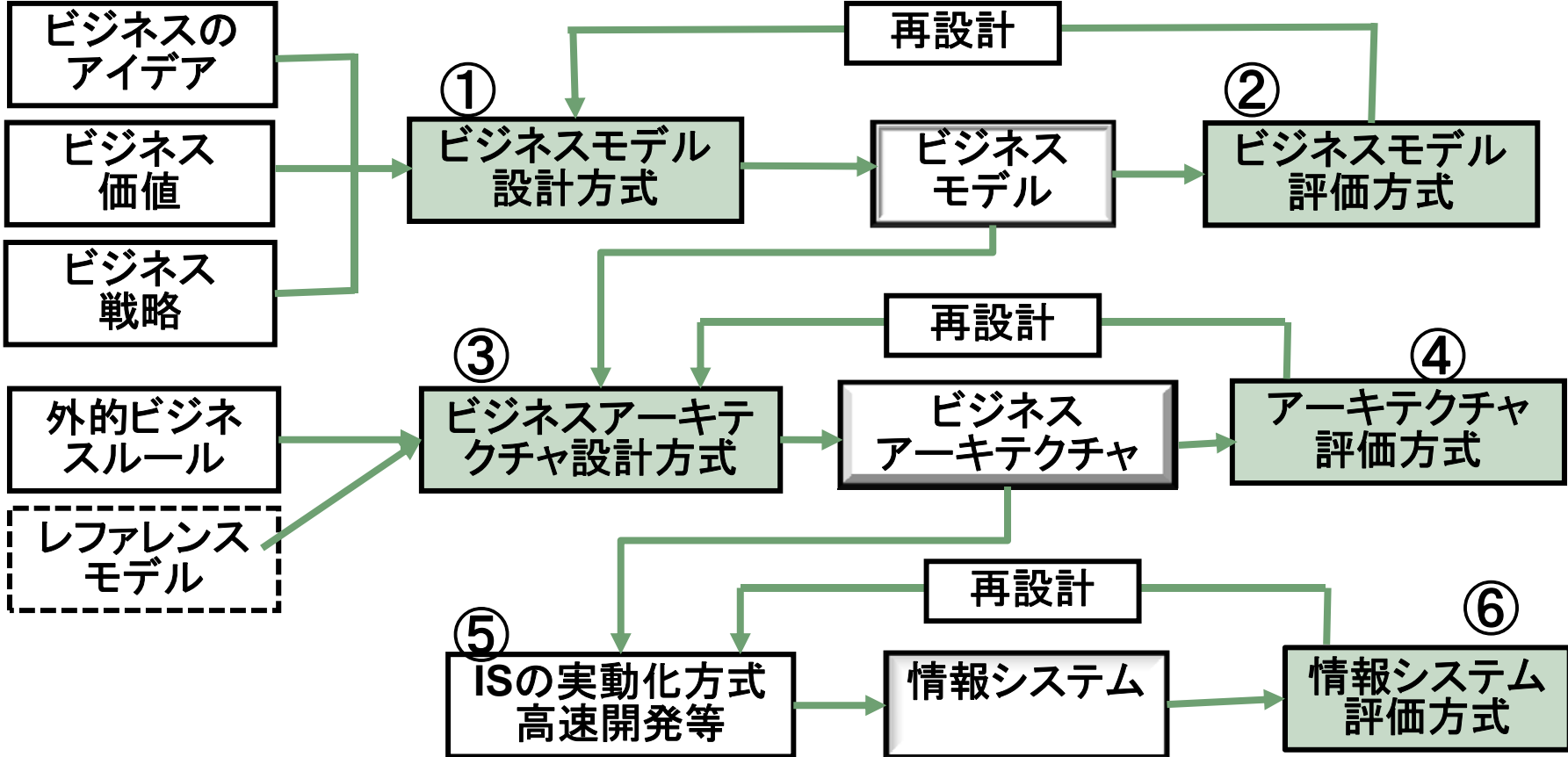
社会風土
失敗に対して再チャレンジを許す風土
異質なものを取り込む風土

人的資本
起業家の能力, 教育
や過去の経験

社会関係資本
起業家の友人や知り合いとの交
際を通じて得られる情報や知識

課題は, 起業時, 離陸時, 安定期により大きく異なるが当タスク
ホースでは, 起業時の課題をテーマとする

2.3 タスクホース全体像



タスクホース全体像の解説

- ① アイデアからビジネスモデル設計方式
 - ◆ アイデアにビジネスの価値, 戦略を追加
 - ② ビジネスモデルを評価する方式を確立
 - ◆ ビジネスモデル評価, 再設計を行うサイクルを回す
 - ③ ビジネスアーキテクチャの設計方法の確立
 - ◆ ビジネスモデルに外部ビジネスルール等を追加
 - ◆ ビジネスルール, ビジネスプロセスを設定
 - ◆ ISのブループリント生成
 - ④ ビジネスアーキテクチャの評価方式の確立
 - ◆ アーキテクチャ評価, 再設計を行うサイクルを回す
 - ⑤ ISの実動
 - ◆ 世の中の高速化手法を利用(GeneXus等多数あり)
 - ⑥ 実動化されたISの評価方式確立
 - ◆ 評価, 再実動を行うサイクルを回す
- ビジネスモデルから情報システムのクイックパスも考慮する

2.4 ストーリー確認のための事例選択

- 標準的な方式の確立は、難しい。幾つかの事例で、一連のストーリーを確認する
- 高邁な事例を今後検討する

3. 目標達成のための手順

3.1 ビジネスモデル設計方式

- アイデアからビジネスモデル(ビジネスシナリ)設計方式
 - ◆ ビジネスに対する思い
 - 誰のためビジネス
 - 何のためのビジネス
 - ◆ ビジネスで実現する価値
 - 顧客に対する価値
 - ビジネスを行う側の価値
 - ◆ ビジネスの戦略
 - 顧客とのリレーションシップ
 - 顧客とのチャネル, 顧客セグメント
 - 差別化要素

3.2 ビジネスモデルの評価方式

- 作成したビジネスのシナリオが、旨く行けそうかの評価を行う
- 評価項目は、下記の項目等について行う
 - ◆ ビジネスのコンセプト
 - ◆ ビジネス環境
 - ◆ 技術的競争力
 - ◆ 収益性
 - ◆ 差別化要素などであり今後更に検討する

3.3 ビジネスアーキテクチャ(BA)設計方式

- BAとは何か
- TOGAF (The Open Group Architecture Framework)の定義事例
 - ◆ 動機(Motivation)
 - 推進要素 目標 目的 評価基準
 - ◆ 組織(Organization)
 - 組織 ロケーション アクターと役割
 - ◆ 機能(Function)
 - ビジネスサービス プロセス 機能
- 我々は下記をBAの設計要素に組み込む
 - **アクターと役割**
 - ◆ 機能(Function)
 - **ビジネスサービス プロセス 機能**

BA設計方式その2

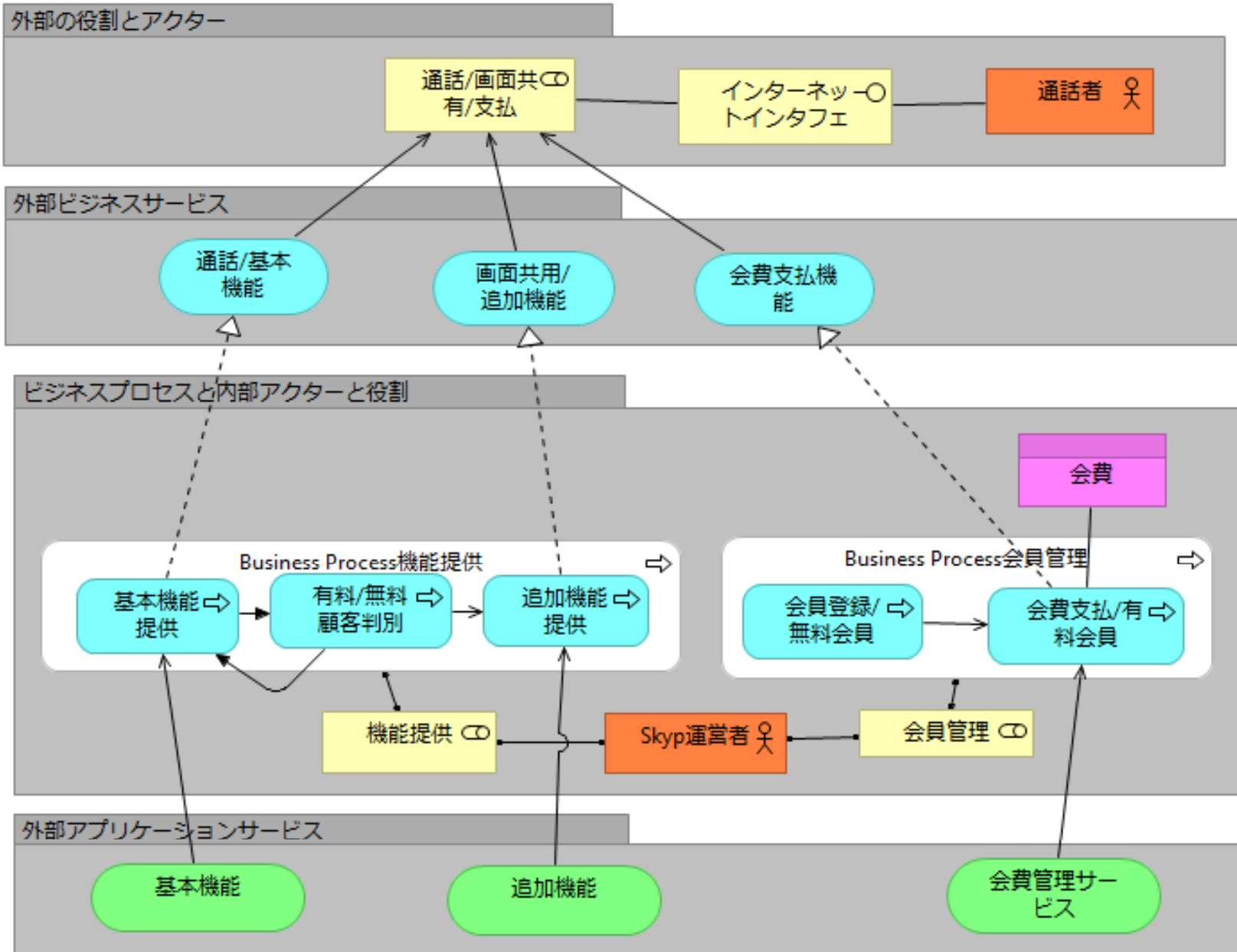
- ビジネスモデルに下記を追加してBAを設計
 - ◆ ビジネスプロセス
 - 外的ルール:法律や業界ルール
 - 内的ルール:業務の規則
 - 業務手順
 - ◆ アクターと役割
 - ◆ ビジネスサービス(外部から見た機能)
 - ◆ ビジネス機能(内部で実現する機能)

- BAの表記にはThe Open Group のArchiMateやBPMNを利用

ArchiMateでの記述

- 全体的なビジネスの記述が可能
 - ◆ アクター(ビジネス実施者, ビジネスの利用者)
 - ◆ 提供されるサービス
 - ◆ サービスを提供するインタフェース
 - ◆ 大まかなビジネスプロセス
 - ◆ サービス実施のための機能(アプリケーション)
- 詳細なビジネスプロセス記述にはBPMNを利用

ArchiMate記述例(Skype)



3.4 BAの評価

- BAの評価は、ビジネスモデルを支えるBAとなっているかの観点より行う

3.5 情報システム実動化と評価方式

- 情報システムの実動化
 - ◆ GeneXus等世の中多数ある高速化手法を利用
 - ◆ なにを利用するかは今後検討
- 情報システムの評価は下記の観点で行う
 - ◆ 情報システムがうまくビジネスを支えているか
 - ビジネス価値に貢献出来ているか
 - ビジネス戦略に貢献出来ているか

4.スケジュール

		2015年度	2016年度	2017年度
1	関連文献調査	→→→		
2	BM 設計方式検討	→→→		
3	BM 設計トライアル	→→→		
4	BM 評価方式/評価実施	→→→	→→→	
5	Archi 設計方式		→→→	
6	Archi 設計実施		→→→	
7	Archi 評価方式/評価実施		→	→
8	IS 実動化方式			→→→
9	IS 実動化実施			→→→
10	IS 評価方式/評価実施			→→→

5. 参加メンバー毎の役割分担

作業項目	タスクホース メンバー	参加大学学生	参加企業 メンバー
1 関連文献調査	◎		
2 BM 設計方式	◎	○	
3 BM 設計トライアル	○	◎	
4 BM 評価方式/評価実施	◎	○	◎
5 Archi 設計方式	◎		
6 Archi 設計実施	◎		
7 Archi 評価方式/評価実施	◎		◎
8 IS 実動化方式	◎		
9 IS 実動化実施	◎		
10 IS 評価方式/評価実施	◎		◎

6. 現時点参加メンバー

- 片岡信弘(元東海大学) 幹事
- 堀米明(フィジオ) 幹事
- 小松昭英(ものづくりAPS推進機構)
- 五月女健治(法政大学)
- 増井久之(電気学会)
- 須栗裕樹(宮城大学)
- 荒川弘熙(チーム荒川)
- 松本正雄(ICEIS)
- 木村礼壮(ドリームIT研究所)
- 久保田 雅彦(MIND社)

引き続き参加者募集中

下記の幹事までご連絡ください。
片岡信弘 : kataoka9@kataoka9.com
堀米明 : horimai@figeo.co.jp

参考文献

- [1]野地保, 片岡信弘, 堀米明, 黒瀬晋, ビジネスモデルを科学する
ープロジェクト報告008ー, 信学技報, SWIM2014-24(2014-11),
pp59-64
- [2] 松田尚子, 松尾豊, 企業家の成功要因に関する実証分析, 経済
産業研究所RIEIT Discussion Paper Series13-J-64(2013)
- [3] ICT経営パートナーズ協会 (著), 関 隆 明 (監修), 超高速開発が
企業システムに革命を起こす, 日経BP社(2014)
- [4] 松本正雄, 高尾みどり, インタプラス モデル化方法の目溢と対
案 IMDM-PA1, ー目次的ビジネスモデルからアーキテクチャ要
旨へー, 信学技報, SWIM2014-33(2015-02), pp37-42
- [5]阿部仁志, 石田文章, 佐久間啓, 奥康成第二世代のビジネスモデ
ル設計, 科学技術と経済の会, 2005年次大会講演集pp819-822
- [6] TOGAF Version 9.1: <https://www.opengroup.org/togaf/>
- [7] <http://archi.cetis.ac.uk/>

ご静聴有り難うございました。